

平成23年度 学校研究

1, 今年度の研究テーマ

自分の考えを意欲的に表現しながら、ともに学び合う子どもの育成

～書く活動を大切にしたい国語科・算数科の指導を通して～

2, 研究テーマ設定の理由

本校は昨年度、「自分の考えを持ち、交流を通して高め合う子どもの育成」という主題を掲げ、意欲的に自分の考えを持つことができる学習過程の工夫と、ねらいを明確にした交流のさせ方の研究を進めてきた。また、サブテーマを「考えを持つ過程を大切に、意欲的に表現し合う活動を通して」とし、低、中、高学年のめざす交流の姿を明らかにして、研究授業だけでなく、日常の授業でも考えを持つ過程を大事にして取り組んできた。

その結果、体験的な活動や身近な題材を用いた授業が展開されたことにより、子ども達一人一人が意欲的に学習に取り組むことができた。考えを持たせるための手立てとして、視覚に訴えたイメージ化、ワークシートの工夫、個に応じた支援カード、学習の足跡が見える掲示など、授業や学年段階に合った様々な工夫、とりわけ「書く活動」が大変有効であることがわかった。また、交流のねらいを明確にして交流の形を工夫したことで、自分の考えを深める姿が見られた。

だが、一方で、「考えをもっとレベルアップさせたい」、「もっと考えを深めたり広げたりさせたい」という課題が残った。「考えをレベルアップする」とは、様々な根拠を示しながら筋の通った考えをはきはきと表現する姿である。そのような表現ができれば、交流の場が単なる発表の場に終わることなく、ともに学び合う場になるのではないかと考えた。「ともに学び合う」とは、児童と児童、教師と児童がお互いの考えを交流（読み合い、聴き合い、質問し合い、納得し合い）しながら、考えを深めたり広げたりする活動である。

今年度は、自分の考えを表出させる手だてとして書く活動を大切にしたい授業作りを進めることにした。また、国語科と算数科に研究の教科を絞り、実践を積み重ねながら、昨年度の課題を克服するために上記のテーマを設定した。

3, めざす子ども像

根拠を明らかにして自分の考えを持ち、意欲的に表現できる子ども
自分の考えを話したり友達の意見を聴いたりする活動を通して、より良い考えを持つことができる子ども

	低学年	中学年	高学年
つかむ	・「何ができればよいか。」がわかる。	・「何がどこまでできればよいか。」がわかる。	・「何がどこまでできればよいか。」見通しを持つ。
求める	・解決に向けた自分の考えを文や図等で書く。	・自分なりの解決方法を理由や根拠とともに書く。	・自分なりの解決方法を理由や根拠とともに書く。
深める	・自分の思いや考えを喜んで話す。 ・人の話をしっかり聴く。 ・友達の発表を聴いて、わかったことや質問してみたいことを話したり、自分と同じか違うかを判断して反応したりする。	・自分の考えとその根拠となる事柄を、聞き手にわかるように話す。 ・相手の考えを理解しようとして聴く。 ・友達の発表を聴いて、わからないことは質問し、自分と同じ意見なら賛成意見を述べ、違う時には反対意見を述べて反応する。	・自分の考えとその根拠となる事柄を、聞き手にわかるように話す。 ・聞き手は意見が違う場合、事実や根拠を知るために質問したり意見を述べたりする。 ・友達や先生の話に発見や疑問の目を持ち、気づいたことを表現する。
まとめる	・板書などを生かしてわかったことをまとめる。	・わかったことをまとめ発表する。	・わかったことをまとめながら学んだことを明確にする。
つかう	・わかったことを使って問題を解いてみる。	・わかったことを使って問題を解いたり文章を書いたりしてみる。	・わかったことを実生活に生かしたり、結びつけたりする。

4, 研究仮説

仮説 1

書く活動を大切にしたい授業作りをすることで、自分の考えを意欲的に表現する子どもが育つのではないか。

<視点>

明確で妥当性のある目標、必要感のある課題の設定と考えを引き出す発問の工夫
考えを表出させる手立てとしての書く活動の工夫

国語科

自分の考えを明確にする小刻みなノート作業、理由や根拠を書くノート作業、教材文へのサイドライン（線種や色の工夫）教材文への書き込み（感想等）図解作業、吹き出し（場面や人物を限定、大切な言葉を使って、場面の流れを考えて）等

算数科

数、式、図、表、グラフ、半具体物操作による表現に言葉による表現を関連付けてノートやプリントに書かせる活動

課題を持続させる板書の工夫

明快で構造的な板書、学習の足跡がわかる板書、強調点がわかる板書等

仮説 2

一人一人の考えを生かした授業作りをすることで、自分の考えを深めたり広げたりする子どもが育つのではないか。

<視点>

机間指導による児童の考えの把握と指名計画・授業展開の工夫

見取り表・支援表の作成と記入

関わりやつながりを生む発問の工夫

対立させる、一方向に方向づける、揺さぶる、根拠を示させる、戻らせる、新しい視点を与える、考えを類型化させる、共通点を導き出させる、追体験させる、資料を提示する等
ねらいを明確にした学習形態の工夫

ペア（考えを確認する。同じか違うのか。良い表現に着目させる。共同解決する。）

グループ（多様な考えに触れ、自分の考えを広げる。共同解決する。）

自由交流（自分の考えを教えたい相手、考えを聞いてみたい相手と交流する）

課題別交流（同じ考えの者同士で確かめ合う。根拠を見つける。）

全体交流（いろいろな考えを出し合い、確かなものをみんなで見つけ出す。自分の考えを広げたり深めたりする。）

5, 研究の進め方

(1) 推進委員会、全体会、国語科・算数科部会を組織し、授業分析を行い、子どもの育ちについて探っていく。推進委員会では研究の基本的な事項についての方針を決定し、全体会で深めていく。

(2) 授業研究を中核に、実践を通して研究を深める。

- ・ 記録者は、事前・事後研究を含めた授業研究において明らかになったことや課題として残されたことなどを「授業研究記録」としてまとめ、配布し、次回の授業研究へつなげる。
- ・ 指導案や授業研究記録、実践記録は、年度末に研究収録としてまとめ、研究の共通理解を図り、次年度に生かしていく。

(3) 研究の日常化を図る。

- ・ 授業研究の時だけでなく、日常の授業で、研究の仮説を意識し、視点の内容を取り入れた授業を仕組む。
- ・ 授業研究を通して明らかにされたことを確認し合い、日常の授業に取り入れ、実践していく。
- ・ 学力充実部との連携を密にし、「考えを持ち、表現できる力」を育てるための学習スキルを育てていく。飯豊町教育委員会「授業づくりの共通実践」を意識し、実践する。

学び方を身につけさせるためのポイントを共通理解し、日常の授業に取り入れる。

発表の仕方、話の聞き方、音読の仕方、ノートの使い方等

ペアやグループ（４人程度）の交流を、いろいろな教科、様々な場面で活用し、話し方・聞き方・進め方・まとめ方など、効果的な交流の仕方を身につけさせていく。

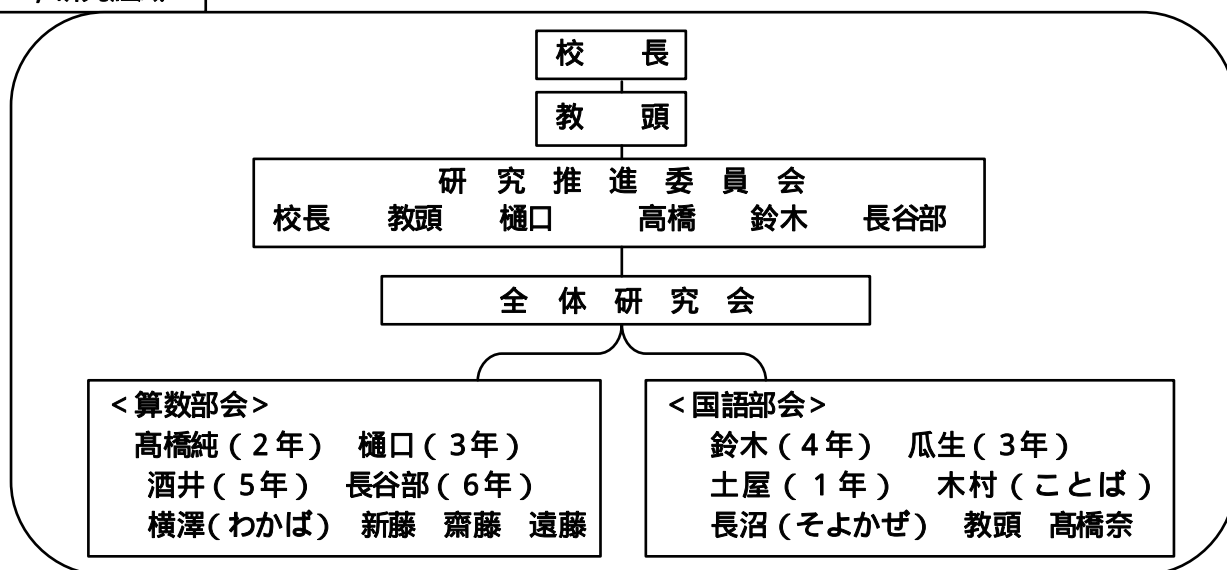
自分の思いや考えを表す場面を、生活・学習の場を広げていく。

（スピーチ、帰りの会、各教科）

- ・ 子ども同士の関わり合いを大切にした学級経営を行い、考えを自由に話せる雰囲気づくりと友達を大切にした言動ができる子どもを育てていくことをめざす。

（４）先進校の研究について学ぶ姿勢を大切に、公開研究会へ参加したり、資料をもとに学び合ったりするなど、その実践を学んでいく。外部講師による指導を仰ぐ。

6, 研究組織



7, 授業研究・研修の計画 《 事前研 授業研究》

		研究内容	指導主事		
4	1 8月	<推進委員会> 研究の全体構想・研究内容の検討			
	2 0水	<全体会> 研究の全体構想・研究内容・研究計画の検討			
6	8 金	授業研究による仮説の検証	算数部会	国語部会	
	2 2水		2年(算数) 高橋	4年(国語) 鈴木	
8	2 4水	授業研究による仮説の検証	算数部会	国語部会	
9	7 水	授業研究による仮説の検証	6年(算数) 長谷部	3年(国語) 瓜生	
	2 8水		算数部会	国語部会	
10	1 2水	授業研究による仮説の検証	3年(算数) 樋口	ことば 木村	
	1 6水		算数部会	国語部会	
11	3 0水	授業研究による仮説の検証	5年(算数) 酒井	1年(国語) 土屋・高橋奈	
	1 1水		算数部会	国語部会	
1	2 5水	授業研究による仮説の検証	わかば (生活単元) 横澤・齋藤	そよかぜ (生活単元) 長沼	
	2 7金		<研究推進委員会> 研究の成果と課題の検討、次年度への展望		
2	1 水	<全体会> 研究の成果と課題の検討、次年度への展望			